

スモン患者におけるストレスレジリエンスと心理的適応

井上真理子^{#1} 田村結唯^{#1} 松浦美恵子^{#2} 島治伸^{#3} 三ツ井貴夫^{#2}

#1 独立行政法人 国立病院機構 徳島病院 四国神経・筋センター 776-8585 徳島県吉野川市鴨島町敷地 1354 番地

#2 独立行政法人 国立病院機構 徳島病院 臨床研究部 776-8585 徳島県吉野川市鴨島町敷地 1354 番地

#3 松山東雲女子大学 人文科学部 790-8531 愛媛県松山市桑原三丁目 2 番地 1 号

受付 2023. 3. 7 受理 2022. 3. 10 出版受託 2022. 3. 25

要旨

本研究では、ストレスからの立ち直り（レジリエンス）と心理的適応の関連、及び日常生活の障害度と心理的適応との関連について調査した。対象は令和4年度徳島県スモン検診対象者である25名にアンケートを郵送し17名より回答を得た。心理的適応度（PAS）各下位尺度間に有意差は認められなかった。次に、スモン患者のブリーフ・レジリエンス尺度（BRS-J）平均得点はBRS-Jの標準化における平均得点に比べて低かった。重回帰分析の結果、PASとJ-RASQとの間に有意性は認められなかった。一方、PAS各下位尺度の精神的幸福感はBRS-Jと有意な関連が認められた。以上の結果から、スモン患者のストレスからの立ち直りと心理的適応の一部は関連し、ストレスからの立ち直りが精神的幸福感につながり、これが心理的適応の重要な要素になっている可能性がある。

キーワード：スモン ストレスレジリエンス 心理的適応

はじめに

徳島県では、平成29年度よりスモン検診時に心理相談を実施している。

令和3年度は、スモンに関する疾病受容と日常生活の自立度に関する調査を行い、疾病受容の一部の要素は日常生活の自立度に関連することが示唆された¹⁾。本年度は疾病というストレスを受けた時、どのような過程を経て心理的適応がおこるのか、疾病を受け入れる前の段階について調査した。本研究では、ストレスレジリエンスをストレスからの立ち直りとして位置づけることとした。

対象と方法

対象は令和4年度徳島県スモン検診対象者である25名にアンケートを郵送し、回答を得られた17名（男性6名、女性11名、平均年齢82.3歳±3.14）を分析対象とした。

内容は心理的適応度（Development and validation of the Psychological Adaptation Scale: PAS）を参考に英語版

を日本語に翻訳し、4つの下位尺度である対処能力、自尊心、社会的適合、精神的幸福感の各5項目の計20項目を使用した²⁾。回答は1～5段階に分けて点数化し、得点が高いほど適応度が高いことを示す。

次に、ブリーフ・レジリエンス尺度日本語版（Brief Resilience Scale-Japanese version: BRS-J）はレジリエンスを測定するための簡易な尺度であり、計6項目を使用した。回答は1～5段階に分けて評価し、徳吉・森谷（2015）の基準を参考に逆転項目である質問2、4、6は配点を逆にして合計得点とした³⁾。BRS-Jの合計における平均値16（SD=6）であり、22点以上：かなり高い、19点から21点：高い、14点から18点：普通、11点から13点：低い、10点以下：かなり低いことを示す。

併せて、日本語版簡易mRS質問票（Japanese version of simplified modified Rankin Scale Questionnaire: J-RASQ）は日常生活の障害度の指標として用いられており⁴⁾、質問は（A）～（E）の項目を使用した。回答は2つの選択肢：はい、いいえで評価し、日本語版modified Rankin Scale（mRS）判定基準書を用いて7

Correspondence to: 井上 真理子. 独立行政法人 国立病院機構 徳島病院 四国神経・筋センター 776-8585 徳島県吉野川市鴨島町敷地1354番地 Phone: +81-88-324-2161 Fax: +81-88-324-8661 e-mail: inoue.mariko.ga@mail.hosp.go.jp

段階に分類した（0：まったく症候がない～6：死亡）⁵⁾。

分析は PAS 各下位尺度間の差をみるために一要因分散分析を行った。また、PAS 各下位尺度を説明変数、BRS-J 及び J-RASQ は目的変数に設定して、それぞれ重回帰分析を行った⁶⁾。

倫理的配慮

本研究では国立病院機構徳島病院の倫理委員会の承認後に実施した（承認番号 34-1）。スモン患者やその家族に対して研究の趣旨をアンケート調査の案内用紙に記載し、アンケートの返送をもって同意とみなした。

結果

(1) PAS 得点と BRS-J 得点及び J-RASQ 得点の基本統計量

スモン患者の PAS 合計得点は平均（95%CI）=60.59（52.18-69.00）、PAS 各下位尺度得点は、対処能力は平均（95%CI）=14.94（12.49 - 17.40）、自尊心は平均（95%CI）=14.18（12.07 - 16.28）、社会的適合は平均（95%CI）=15.82（13.86 - 17.79）、精神的幸福感は平均（95%CI）=15.59（13.01 - 18.17）であった。また、一要因分散分析の結果、PAS 各下位尺度間に有意差は認められなかった（ $p=0.706$ ）。次に BRS-J 得点は平均（95%CI）=14.76（12.03-17.49）であった。J-RASQ 得点は平均（95%CI）=3.35（2.63-4.08）であった。

(2) PAS 各下位尺度得点と BRS-J 得点及び J-RASQ 得点の関連

PAS 各下位尺度の精神的幸福感は BRS-J と有意な関連が認められた（ $p=0.024$ ）。その他、PAS 各下位尺度の対処能力、自尊心、社会的適合は BRS-J と有意な関連は認められなかった（ $p=0.077$ ）、（ $p=0.535$ ）、

（ $p=0.502$ ）。次に PAS 各下位尺度の対処能力、自尊心、社会的適合、精神的幸福感は J-RASQ の間に有意な関連は認められなかった（ $p=0.817$ ）、（ $p=0.296$ ）、（ $p=0.447$ ）、（ $p=0.462$ ）（表 1）。

考察

レジリエンス（resilience）は、1970 年代から使用されるようになった概念である。人生において人は、親しい人の死や離婚、病気、事故など、さまざまなライフイベントを経験する。かつては、それらの経験により何割の人が不適応やうつ病、心的外傷後ストレス障害などの病因、病態に関する研究がなされていた。しかし、すべての人が精神的不調を示すわけではなく、精神的な健康を維持し続けることがある。この後者のポジティブな特性に注目して生まれたのがレジリエンスである⁷⁾。

我々は、ストレスレジリエンスをストレスからの立ち直りとして位置づけ、レジリエンスと心理的適応の関連、及び日常生活の障害度と心理的適応との関連について検討した。PAS と J-RASQ との間に有意性は認められず、スモン患者の日常生活の障害度と心理的適応は関連がみられなかった。

一方、スモン患者の BRS-J 平均得点は BRS-J の標準化における年齢層の平均得点に比べて低かった。レジリエンスは、各発達段階において経験される課題や出来事を介して上昇していくが⁸⁾、スモン患者は現在もなお視力障害や歩行障害、異常感覚などの神経学的な後遺症に苦しんでおり⁹⁾、スモンが日常生活に与えた影響や苦悩がレジリエンスの低さに関係しているのではないかと考えられる。しかしながら、スモン患者と BRS-J の標準化における平均得点の比較では年齢層が異なることや対象数が少ないことから、さらなる検討が必要であった。

次に、BRS-J は心理的適応度の一部である精神的幸福感との関連が認められた。このことは、ストレスからの立ち直りが精神的幸福感につながり、これが心理的適応の重要な要素になっている可能性がある。これまでの心理介入においても、スモン患者は家族や友人などのサポートに感謝されており¹⁰⁾、このことが精神的幸福感に寄与しているものと考えられた。

文献

- 1) 三ツ井貴夫ほか スモン患者の疾病受容に関する研究，厚生労働行政推進調査事業費補助金（難治性疾患政策研究事業）スモンに関する調査研究令和 3 年度総括・分担研究報告書 p161-164.

表 1 PAS 各下位尺度と BRS-J 及び J-RASQ の重回帰分析

	<i>p</i>	
	BRS-J	J-RASQ
対処能力	0.077	0.817
自尊心	0.535	0.296
社会的適合	0.502	0.447
精神的幸福感	0.024	0.462

- 2) Biesecker BB et.al. Development and validation of the Psychological Adaptation Scale (PAS) : Use in six studies of adaptation to a health condition or risk. Patient Educ Couns 2013 November ; 93. 1-14
- 3) 徳吉陽河・森谷満ブリーフ・レジリエンス尺度日本語版 (BRS-J) の開発 日本心理学会 79 回大会発表論文集, 354, 2015.
- 4) 井健一朗ほか 日本語版簡易 modified Rankin Scale 質問票 (J-RASQ) の開発と検証, 臨床神経学, 59 (7) : 399-404, 2019.
- 5) (旧版) 脳卒中治療ガイドライン 2009 <https://minds.jcqhc.or.jp/n/med/4/med0081/G0000262/0157> (2023 年 1 月 6 日)
- 6) 柳井久江 : エクセル統計第 4 版オーエムエス出版 2015
- 7) 内野小百合 災害救助者におけるレジリエンスの文献検討 東京女医大看会誌 Vol 9. No1. 15-20, 2014.
- 8) 上野雄己ほか 日本人成人におけるレジリエンスと年齢の関連 心理学研究 89 (5) 514-519, 2018
- 9) 久留聡ほか令和 3 年度検診からみたスモン患者の現況, 令和 3 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金 (難治性疾患政策研究事業) スモンに関する調査研究令和 3 年度総括・分担研究報告書 p25-49.
- 10) ツツ井貴夫ほか スモン患者の精神的健康度 : パーキンソン病患者との比較, 厚生労働行政推進調査事業費補助金 (難治性疾患政策研究事業) スモンに関する調査研究令和 2 年度総括・分担研究報告書 p205-212.